

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第 56 回部会）会議録

日 時：令和 7 年 7 月 10 日（木）午後 7 時～午後 8 時 25 分
場 所：東淀川区役所出張所 1 階会議室

【議事】

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 議題
 - (1) 淡路駅エリア計画の策定について（報告）
 - (2) まちづくりに関する情報提供
 - ・ AI オンデマンド交通の社会実験について
 - ・ 阪急連立事業の完成予想図の更新について
 - (3) 地域での活動報告及び意見交換
- 4 その他
- 5 閉会

＜配付資料＞

- ・ 議事次第
- ・ まちづくり通信
- ・ 【資料 1】 淡路駅エリア計画関連資料
- ・ 【資料 2】 AI オンデマンド交通社会実験関連資料
- ・ 【資料 3】 阪急連立事業完成予想図

1. 開会

2. 部会長あいさつ

（部会長）

- ・ 5 月 10 日に阪急洛西口駅の視察に行き、高架下の利活用について学習してきた。われわれのエリアでも、関心が高まっているところ。引き続き、地元と区役所がタッグを組み、住民参加のまちづくりを進めていきたいと思っているが、先般実施された、新大阪のまちづくりに関するパブリックコメントでは、否定的な意見も掲載されたと聞く。市民、区民のみなさんが地元の取組み、現場の意見をキャッチして、府市に対して意見を述べていただきたいと思うし、このまちづくり構想部会が中心となって、さらに、区民のみなさんに対する情報提供が進められるよう、取り組んでいきたい。

3. 議題

（1）淡路駅エリア計画の策定について（報告）

（事務局）

- ・ 昨年度、皆さんから意見をいただき検討を進めてきた「淡路駅エリア計画」が 6 月に策定された。

（大阪市計画調整局）

- ・ 地域の皆さんからの意見をふまえ、6 月 18 日に「淡路駅エリア計画」が策定された。今回の「淡路駅エリア計画」Ver. 1 は、まちづくり全体の大きな方向性を示したもので、地域との連携、地域住民と来訪者とが連携して魅力あるまちにしていけることが重要と考えている。計画策定にあたり、一緒にお考えいただき、貴重なご意見をいただき、感謝する。
- ・ 今後の進め方は、柴島浄水場の機能集約の進捗であったり、まちづくりの方向性、各種プロジェクトなど

がより具体化したタイミングにおいてエリア計画を更新して、淡路駅エリアにおけるまちづくりを加速していきたいと考えている。引き続き連携をお願いする。

(質疑応答)

(淡路地域 部会員)

- ・回遊性を持たせるということに、我々も興味があるところ。（淡路駅から）新たに開発されるエリアやひいては新大阪とどうつながっていくのが大事なポイントと思う。具体的に歩道なのか車道なのか。歩道とすると、歌島豊里線のような大きな幹線道路を横断歩道で渡るのか、歩道橋になるのか、うめきたのような歩行者用デッキなのか、「回遊性」のひとつではなくて、具体的にどのようなものになるのかがイメージできるようになれば良いと思う。（17 ページの図で）淡路駅前周辺と新たな開発区域が歌島豊里線で遮られているように見えて、この道路どうやって渡るんだろうというところ。いわゆるW踏切の周辺など、現在地域住民にとっては嫌なスポットが、将来の交通結節点になるといい。

(大阪市計画調整局)

- ・ご質問の動線についてはこれから具体的な検討を進めていく。

(淡路地域 部会員)

- ・（17 ページの）ピンク色の淡路駅前周辺からオレンジ色の新たな開発区域への歩行者ルートはどのルートになるのか。オレンジ色の区画への歩行者の入口はどこなのか、それとも公園のように間口が広くどこからでも入れるのか、そういったあたりがイメージできないので、回遊性と言われても、どうやってオレンジ色のところへいくのだらうとなってしまう。現地に、このあたりから通行できます、と示してもよいのでは。工事中仮囲いで囲まれることになっても、地域住民に対して、将来はここを歩けるようになるんですよ、といったイメージを伝えるべきでは。

(部会長)

- ・淡路・西淡路側の公園が、グラングリーンのような開発区域に対するたまり場になれば。東淡路側も同様になり、両地域が上手に結びつくようになればいい。

(啓発地域 部会員)

- ・高架下そのものを移動動線にはできないのか。

(事務局)

- ・高架下の利活用と柴島の開発区域はセットで今後考えていく。

(淡路地域 部会員)

- ・高架下の利活用も大事だが、高架という言葉でのイメージから、どこでも行き来できるイメージを持つが、いざ使い始めると横断できるところは限られていて、結局分断されてしまうのでは。

(啓発地域 部会員)

- ・京都の洛西口～桂駅間の高架下は、片側は広く、片側は遊歩道のようになっていて、吹き抜け感があり、何か所も行き来ができるようになっていた。

(東淡路・柴島地域 部会員)

- ・洛西口はそうだったが、道路の幅とかから、こちらの地域でも出来るようなイメージが持てない。

(淡路地域 部会員)

- ・（地域でまちづくりの方向性を考えるにあたって）ここの高架下には車は入ってこないとか、ここの高架下は歩行者だけの移動動線ができるといった情報が必要。

（大阪市計画調整局）

- ・開発エリアとあわせて、南北の歩行者の動線を考えていく。

（久名誉教授）

- ・淡路駅～崇禅寺駅間の高架下と柴島浄水場開発エリアの間に車道がドーンと走ってしまうと意味が無い。開発エリアへどこから車をいれるのかというところで、ここには車を入れないでね、東から回ってください、といった条件をつけて事業者募集をしないといけない。

（淡路地域 部会員）

- ・車がどこを通るのかについては、地元としては事前に相談してほしい。そうでないと、結局また車道によってまちが分断されてしまう。

（久名誉教授）

- ・阪急洛西口駅～桂駅間の高架下のあの距離（約1 km）を歩けたので、こちらでも歩けるはず。ただし、洛西口は途中までは楽しく歩けたが、後半は普通の高架下になっていたの、崇禅寺駅側を工夫することで洛西口よりもっと楽しい空間ができるのではないかなと思う。

（部会長）

- ・東淡路商店街の皆さんや下新庄の皆さんの意見も大切にしながら、皆さんの意見集約を進めていきたい。

（東淡路・柴島地域 部会員）

- ・東淡路・柴島地域では、これからワークショップで意見を集めていく。

（2）まちづくりに関する情報提供

- ・AI オンデマンド交通の社会実験について

（大阪市都市交通局）

- ・大阪市における今後の公共交通をめぐる課題として、少子高齢化が進み、都市部の大阪市内であっても、地域によって人口の減少に差が出てきている。そもそも運転手がいらないという担い手不足も見込まれていて、地域交通を巡る社会的環境が大きく変化することが考えられる。大阪市では現在、鉄道を中心にバスによって公共交通ネットワークが整備されているが、将来にわたって持続可能な地域公共交通を検討していく必要があることから、「AI オンデマンド交通」の導入を検討して、公募を行ったところ。
- ・AI オンデマンド交通とは、従来の定時定路線型ではなく、利用者の予約に対してAIによる最適な運行ルート、配車をリアルタイムに行う乗合輸送サービス。従来の路線バスとの違いは、乗降場所を比較的自由に設定できること、線的ではなく面的に運行できる交通というところが、大きな特徴になっている。なので、乗降場所の設定次第では、区内移動が大幅に向上する可能性があると考えている。
- ・民間事業者の自主事業として実施をするので、大阪市としての公費負担等を行わないものとしての提案募集になっている。
- ・社会実験が開始された際には、「乗って育てる地域交通」として実際にご利用いただいて、その良し悪し等についてぜひご意見をいただければ。

(大阪市高速電気軌道株式会社)

- ・このオンデマンドバスは、お客様のご予約に応じて、車を配車してお客様をお運びするサービス。タクシーとの違いは、停留所が決まっている点と、乗り合いという点。乗車予約は3日前から、スマートフォンアプリ、公式サイト、LINE 公式アカウント、電話から可能。
- ・社会実験の開始時期は、東淀川区では令和8年3月以降の開始予定で、1年間の社会実験を予定。
- ・運賃は、大人 210 円、小児 110 円で、支払いは現金またはスマートフォンアプリに紐づけしたクレジットカード、O s a k a P o i n t で、敬老パスや IC カードは使えない。よく利用する方向けにデジタル定期もある。
- ・路線バスと異なり、定員があり予約した全員に着席いただく。
- ・予約、運賃はそれぞれ必要となるが、区境の乗換場所を利用すれば他のエリアのオンデマンドバスも利用可能。

(質疑応答)

(部会長)

- ・北区で何台か走っているのを見たことがある。何台程度が運行しているのか。

(大阪市高速電気軌道株式会社)

- ・北区・福島区あわせて最大 17 台が運行している。

(淡路地域 部会員)

- ・エリアをまたぐ場合には、それぞれで予約が必要なのか。

(大阪市高速電気軌道株式会社)

- ・その通りである。

(部会長)

- ・他の区での成果と課題をふまえて、何分前まで予約できるのか、また、毎日利用する場合、毎日予約しても構わないのか。

(大阪市高速電気軌道株式会社)

- ・理論上、5分前でも予約は可能だが、実際には予約は取れない。30分～1時間前でも難しいかもしれない。特に雨の日は人気がある。定期利用は、電車の定期券とは異なり、サブスク利用になる。毎回予約をトライしていただき、毎日同じ時間に乗車・降車できる保証はない。

(久名誉教授)

- ・今、試しにアプリで、大阪駅から大阪市役所までの状況を見てみたら、30分後に乗車との状況。

(大阪市高速電気軌道株式会社)

- ・道路状況などで到着予定も変わるので、10分位の余裕をみてもらうとよいと思う。

(啓発地域 部会員)

- ・この社会実験の目的は何か。利用者数を知りたいのか、交通弱者の救済や、路線バスを減らしていこうということか。

(大阪市都市交通局)

- ・今後、地域交通の課題が出てくるときに、新しい技術として AI オンデマンド交通があり、一旦それが市民や区民のみなさまに受け入れられるかどうか、新しいシステムなので使ってもらわないと次の展開もできない。それが受け入れられたうえで、各区の事情や特徴があるので、地域に合わせたような形でうまくできないかと考えている。まずは、新しい交通を試していくというところがスタート。

(啓発地域 部会員)

- ・一番使いたいと困っている交通弱者が予約できる仕組みになっているのか？

(大阪市高速電気軌道株式会社)

- ・電話による予約もできる。地域でのスマホや LINE の使い方講習会と合わせて説明会を実施している。
- ・現状、他の区でのコアユーザーは、30 代から 50 代の女性。オンデマンドバスは万能ではなく、絶対に定時に着かなくてはならない時には向いていない。移動手段を選ぶ選択肢の一つとして試してもらう実験である。

(大阪市都市交通局)

- ・老人憩いの家やスーパー、区役所などで、スマホ教室とのコラボなど、説明会を開催している。

(啓発地域 部会員)

- ・非常に便利。停留所が家の前にあれば一番便利。利用が広がると台数が増え、またたくさんの人が乗れるようになるので、使える方法はないかと考えている。

(大阪市高速電気軌道株式会社)

- ・高齢者の場合、実際にはご家族が代理で予約していることも多いようだ。

(部会長)

- ・調査事業を始めた社会的背景を教えてください。また、私たちも以前、NPO 法人が地域コミュニティバスを走らせていたので、停留所の場所や位置を決めるのに苦労した。オンデマンドバスでは、どのように決めるのか。

(大阪市都市交通局)

- ・人件費の高騰や担い手不足などにより、路線バス網がいつまでもつのが大阪市においても課題。我々は、路線バス網をできるだけ維持していきたいので、バス会社のほうに補助金を出すなどして支えているところ。ただ、それを続けられるかは難しく、また補助金を出しても運転手がいないと維持できないといったところが、今の社会的背景。それをどう解決するのかというのは、すぐには解決できないと思うが、代わる何かを育てていかないと、急に路線バスがなくなったという時には、何か少しでも残すものが必要かと思う。そうかといって、オンデマンドバスが路線バスにとって代わるというのは、まだまだそこまでのものではないと思っている。路線バスで運んでいる人数がオンデマンドバスでの人数とは違う。現状は、路線バスを維持していきたいと思っている。

(大阪市高速電気軌道株式会社)

- ・ネットワークを確保するために、まずは駅や主要な公共施設を優先して乗降場所を設定する。また、従来の路線バスとは異なる面的サービスなので、それを実現できるよう設定している。さらに、他の交通、路線バスとの輻湊を避けるように設定。また、警察との協議も必要。

(部会長)

- ・地域の要望について、話は聞いてもらえるのか。

(大阪市高速電気軌道株式会社)

- ・乗降場所に関する要望があれば最初のアプローチとして、要望のあった場所付近で営業をかけ、有料乗降場所の設置による収入をめざす。事業性を確保して持続していきたいので、要望を言っていただいて利用していただきたい。

(淡路地域 部会員)

- ・ドタキャンなど、キャンセル率は大丈夫なのか。

(大阪市高速電気軌道株式会社)

- ・バスの到着が遅れたために、乗車されないことは結構ある。乗車されない場合、予約をキャンセルしないと、バスはお客さまのいない乗降場所に向かうことになり、次のお客さまに迷惑をおかけすることになるので、乗車されない場合はキャンセルしてほしい。

(久名誉教授)

- ・スマホにアプリを入れている人は、すぐに予約できると思う。

・ 阪急連立事業の完成予想図の更新について

(事務局)

- ・阪急電鉄から、各駅の完成イメージ図が更新されたので、お伝えする。今後、ホームページやパンフレットではこちらのイメージ図が使われるそうだ。持ち帰って、地域の方にも伝えてもらいたい。

(啓発地域 部会員)

- ・柴島駅は、淀川キリスト教病院の2階とつながるのか？現地を見ると、つなげる予定なのかと思う。

(事務局)

- ・阪急電鉄からはそこまでは聞いていない。

(啓発地域 部会員)

- ・また、駅の高架下の柱の間には、公共施設やテナントが入るのか？

(事務局)

- ・今後、阪急電鉄や大阪市において検討される。

(3) 活動報告及び意見交換

(下新庄地域 部会員)

- ・5月21日に、阪急洛西口駅の視察に参加した4名の方から報告会を兼ねたワークショップを行った。洛西口駅の高架下利用について、皆さん良い印象を持っていたが、下新庄駅でも出来るのか、地域に合ったもの一みんんで使える集える場所などを考える必要があるのでは、という意見が多く出た。また、阪急連立事業の工事中の仮囲いなどを利用して、下新庄地域のアピールをしていく方法を検討している。下新庄地域には昔から「明るいまち 下新庄」というスローガンがあるが、それに加えて若い人達にも伝わるようなスローガンを考えていく。6月、7月のこども食堂のカレー屋さんに来てくれた子ども達に「下新庄ってどんなところ？」といったアンケートを行い、集まった意見を取り入れていきたい。6月には、子ど

も達からは、やさしいまち、笑顔、楽しい行事といった意見が多く出ていた。子ども達からは直接的な表現での意見はすぐには出てこないが、これまで地域がやってきた行事やイベントなどが、子ども達の心のなかでは響いてくれているのだと嬉しく思った。子ども達からの意見をまとめ、地域の活動・行事紹介やまちの将来イメージなどを仮囲いに提示してもらえば、多くの方に見てもらえるのではないかと思う。

(久名誉教授)

- ・今日は淡路駅エリア計画の報告があった、これから中身を詰めていかないといけない。新しい開発区域のエリアマネジメントは誰がするのか（といった検討）についてもこれから。エリアマネジメントには、ぜひこちらのメンバーや地域住民も参加してほしいと思う。区役所と地域と一緒にやっていけるといいと思う。

(啓発地域 部会員)

- ・西中島では小学校が統合されてしまう位、人口が減っているが、啓発地域でも同様に人が減っていく危機感を持っている。東中島では、ワンルームマンションばかりが増え、ファミリーが減っている。高架下で起業したりして、活性化して、ファミリー世帯が増えていけたら。

(事務局)

- ・アクションプランにもファミリー層を増やしていきたい旨、盛り込んでいけたらと思う。

4. その他

- ・次回の部会は、9月11日（木）午後7時から、東淀川区役所出張所3階会議室で開催予定。

5. 閉会

以上